
Monochrome Planet ～Reality of the dream.～

杏野丞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Monochrome Planet ~ Reality of
the dream ~

【Nコード】

N3814G

【作者名】

杏野丞

【あらすじ】

夢のうつつ、うつつの夢——イメージの連鎖による掌編小説。

君に聞いて欲しい。多分、それは君も知っている話。

それは遠い場所の、うつつの夢。

白と黒に彩られた、小さな星が、微睡んでいる。

広大な黒の海を満たす音は、胎動。静かなその暗闇の中で彼は眠りに着いている。

濁らない漆黒の海、その波打つ羊水の内側、深海よりまだ深い何処かで、新たに沸き上がった熱が蒼白く輝いた。それは脈打ち、膨れ上がり、新たな肌を水の中に現す。

刻々と産まれゆく地盤を海淵に隠したまま、時々彼は寝返りを打つようにその身体を震わせる。

彼の上に住む微小な何かが、その度に暗い羊水に飲まれたり岩の隙間に入り込んだりもしたが、彼は別段気にもとめない。

君にも想像できるだろう。そんな物など気にならない程、大きく、

そして穏やかな眠りの底に彼はいる。

彼は——その海に沈む星は、微睡んでいる。

その星が何処にあるものなのか誰も知らない。暗い暗い中空の片隅で、その星は眠り続けている。果てしなく長い時を、眠り続けている。

星の上では絶えず色々な生き物が産まれては死んでいる。戦い合う者も愛し合う者も、結局は残らず死んだ。産まれる者の数も中々多い。しかし、それらより遥かに死にゆく者の数が遥かに多い。

だからだろう。この星の上にはいつも、何処か侘しい黴色の風が吹いている。

その風の匂いを嗅ぎながら、朱色のスナトカゲが小さなこうべを上げる。

海だらけのこの星には珍しい陸地、灰色の砂漠の丘で、ひっそりとスナトカゲは生きている。彼らは本当に小さな生き物だ。砂粒くらい小さな翡翠の眼を懸命に見開いて、スナトカゲは空に視線を巡

らせる。匂いがするのだ。

君にも想像できるだろう。暖かな雨の匂いが。

その一匹の他にも、同じように首を巡らせて雨を待つスナトカゲが砂丘の上に何匹かいる。

海が多い星だったが、やはり砂漠はいつも渴いている。

トカゲ達の見上げる虚空は白い。太陽すら、その空に色を注さぬかのように白銀なのだ。黒の海を映したように灰色の斑に漂う雲以外、空は何処までも抜けるように白い。

時折その白に混じるのは、夕陽のような橙のタソガレカモメの群れだ。この辺りの空を翔ぶのはそれと、青銅色のツルギトビぐらいなもの。

今日の空には青はない。だからこそ臆病者のスナトカゲも砂の上を這い回っているのだろう。空の高みから突如襲ってくるツルギトビは、非力な彼らにとって天敵だ。

パラパラと空に散っていた橙色の鳥達が去って直ぐ、海と同じ色の雲が立ち込めた。

君も感じるだろう。恐らく雨はもうすぐだ。忙しく、けれど楽し気に、スナトカゲは赤い後足で砂を蹴り上げて走っている。

この星で色を持つのは生き物だけだ。

明るすぎる白い空と、暗すぎる黒い海、そして間を取る灰色の土、砂、岩。星は実に極端な色合いをしている。

星は眠りの中で、色のない夢をみているのだと。君も聞いた事がある筈だ。老人達はそんな昔話を子や孫にして聞かせていた。

——空は昔、あの空を飛ぶ鳶のように青かった。海も、その空を映したように、青かった。夕暮れの空は鴟のように紅く、夜の空は海のように深い黒。

夜空には小さな砂粒のような銀の星が、流れる河のように漂っているのだ。昼は金の太陽が命を暖かに照らし、夜は銀の月が柔らかな眠りを誘う。

鮮やかに、そして滞りなく、世界は回っていた。この星は確かに全ての命と共に生きていた。

それは昔、昔の事だ——……。

誰かはそれを神罰と呼んだ。くだらないと言う者もいたけれど、己の考えの及ばない何処かで何かが起こったのだとは、皆気付いている。

君だっけきつと、気付いている。

この小さな星は知る者が死に絶える程の昔から、微睡みの中にいる。

星が眠りに就いた時から世界の色は歪んだ。鮮やかだった色無くしモノクロオムと化した星は、浅く、だが醒めない眠りに就いている。

眠りに就いてしまった理由は誰も知らない。何故、星が眠っているとか知ったのか、それを知る者も最早誰もいない。それでも皆知っている。勿論、君も。

歪んだ星の色は、何故か他の生き物に移っていた。空を舞う生き物は、青く赤く、黄金で濃紺の、様々にうつろう空の色。同じように、海の生き物は海の、陸の生き物は陸の、各々の色に染まった。

けれど、星の色を与えられてより鮮やかになっていく命の中で、唯一、色を無くした生き物が地上にいる。

分かるだろ？

それはアダムとイヴの子。

二本足の地を行く者。思考する葦。理性と本能の徒。

今は何と呼ぶのだろう。

昔はそれらをヒトと呼んだ。

誰かはそれを神罰と呼んだ。くだらないと言う者もいたけれど、己の考えの及ばない何処かで何かが起こったのだとは、皆気付いていた。

勿論、君も気付いていた。

でも本当の理由は誰も知らない。尋ねるべき相手は――星は、眠りに就いている。鮮やかな命を残して、ただ独り、彼は眠りという絶対的な沈黙の海に沈んでいる。

夢のうつつ。
うつつの夢。

遙か遠くで無彩色の惑星が見た、それは色の無い夢だ。

中空の片隅で、彼は微睡んでいる。

夢見たものが過去か今か、それは彼にも分からない。君も知らない。誰も知らない。思考は大分前に途切れている。今はただ、混沌たる夢を見るのみ。

夢の夢。

うつつの現。

そんな夢を見たのは、もしかしたら君かも知れない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3814g/>

Monochrome Planet ～Reality of the dream.～

2011年10月3日18時42分発行